

ねりまの文化財

一月二六日は文化財防火デー

文化財を火災から守ろう！

一月二六日は第四九回「文化財防火デー」です。この日を中心に、文化財を火災・震災などの災害から守るため、全国各地で防災訓練が実施されます。

大戦後の混乱の中、国宝や重要文化財が海外に流失する危機感がありました。このような退廃した空気の中、昭和二四年一月二六日に法隆寺金堂で失火があり、世界最古の木造建築に描かれた白鳳時代の壁画が焼損しました。また、翌年には金閣寺が火災に遭い、国民に強い衝撃を与えました。そこで、国は昭和二九年に、法隆寺金堂壁画が罹災した一月二六日を文化財防火デーと定め、貴重な文化財が失われないように広く国民に協力をお願いする日としました。

最近では、平成一〇年五月に東大寺戒壇院千手堂が全焼し、重要文化財の木造愛染明王坐像などが被害を受けま

た。さらに、平成一二年五月寂光院本堂が火災に遭い、重要文化財の木造地藏菩薩立像が焼損しました。

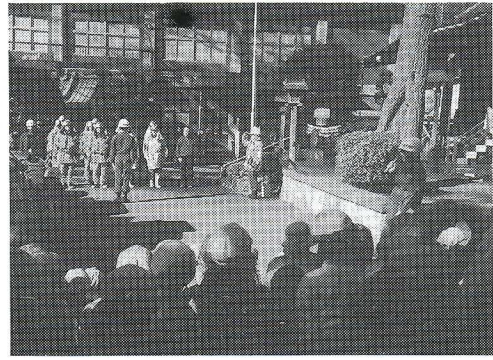
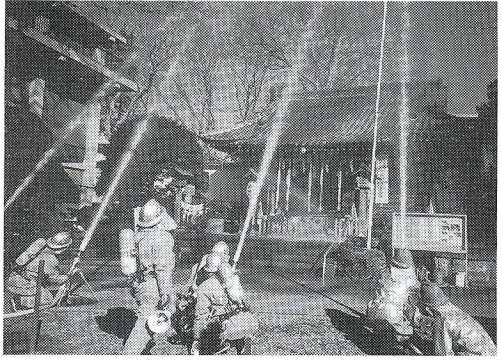
文化財は、先人たちが永年にわたって大切に守り伝えてきたかけがえのない財産です。文化財を平素から火災から守り、次代に伝えていくためには、皆さん一人ひとりのご協力が必要です。

練馬区内でも、練馬・光が丘・石神井の三消防署が次の寺社で防火演習を行う予定です。自由に見学できますので、是非お越しください。

なお、場所と時間についてはねりま区報の一月二二号をご覧ください。

*お問い合わせ
練馬区教育委員会文化財係

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
☎3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1



今年も 江戸開府 四百年!

慶長五年(一六〇〇)、関が原の戦いに勝利した徳川家康は、大阪城から伏見城へと移り、慶長七年に江戸城に戻ります。翌年の慶長八年(一六〇三)、家康は征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きました。この年以降、江戸は政治経済の中心となり、町屋や大名屋敷が整然と建ち並ぶ、百万人もの人々が生活する世界でも有数の近世都市として発展していきます。

江戸の人口が増加するにつれて、練馬区の地域は周辺農村として発展しました。武蔵野台地では、水稲耕作よりも畑作に適していたため、新鮮な野菜を生産し、江戸のまちへ供給する地域として江戸の台所を支えました。スキなどが生える野原から、畑と雑木林がならなる景観へと移り変わりました。また、將軍家の鷹狩も行われるなど、江戸府内から近い村々として、江戸文化の影響を受けた生活が営まれました。

